

令和3年度 加藤学園高等学校 自己評価表(結果)

加藤学園高等学校長

加藤瑠美子

加藤学園高等学校関係者評価委員会委員長

尾崎 庸夫

学校教育目標

建学の精神である校訓「至誠」は人間の最も大切な心構えであり、創立以来不変の教育理念として継承されている。教育は、知育・徳育・体育の調和のとれた育成にあるが、徳育の最高目標として、「至誠…まごころを尽くす」を掲げ、近代的知性にあわせて、誠実で品位ある人づくりを目指す。

今年度の重点目標

ア 生徒一人ひとりを大切にし、豊かな心を育てる
 イ 保護者・生徒が安心・満足できる学校づくり
 ウ 生徒の希望に沿った進路指導
 エ 基本的生活習慣の徹底
 オ 校友会活動への積極的参加、文武両道を目指す
 カ 国際理解教育の推進

領域	ねらい	評価項目	達成目標	自己評価	成果及び改善点	外部評価	学校関係者からの意見
徳育	建学の精神の実践	目標を踏まえた学習活動を実施し、指導と一体化した評価を行う	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の励行と瞑想の徹底。 清掃指導の充実。 ボランティア活動の実施。 授業充実のために教室内外の環境整備を心掛ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 週のはじまりを挨拶強化の日としているが、マスク着用の影響もあり徹底するのが難しくなっている。 担任が清掃指導をしているが、教員の目が行き届かない場所が部分的にある。 来年度も新型コロナウイルス感染症対策の為、ボランティア活動は計画していない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主性を育む中で実践していくことが課題解決につながる。 校訓「至誠」は全員がなすことであるが、コロナ禍になり欠ける点がある。 どの生徒さんからも素晴らしい挨拶をいただき、清々しい気持ちになる。 至誠の具現化で生徒たちが実感できる活動を考えてほしい。教室の美化コンクールなど。 校舎に向かって挨拶している生徒を見かける。建学の精神を理解し、実践している結果である。 ボランティア活動はとても良いことなので、早く実施できるようにしてほしい。
校友会	校友会活動への積極的参加	校友会活動を活性化させる	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自立性、規律性、人間性、社会性の向上に努める。 達成目標を掲げ、心身の鍛錬に励み相互の信頼関係を構築する。 1年生は原則全員が校友会活動に入部する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において、挨拶の徹底や校則の遵守など、人間性や社会性を高めるための指導を行っている。 柔道部: 全国高校柔道選手権静岡県予選男子団体・個人とも優勝(団体5連覇)し全国大会出場、個人ベスト8、団体ベスト16という素晴らしい結果を残した。静岡県高校新人大会個人戦男子81kg級優勝。 チアリーダー部: USA School&College Nationals 2021高校編成 Song/Pom部門 Medium編成 第4位。USA Regionals 2022 song/pom medium編成 地区予選通過 全国大会出場。 陸上競技部: 県駅伝男子5位で東海駅伝に出場し19位。 バドミントン部: 全国高校選抜バドミントン大会東海地区予選個人対抗の部男子ダブルスベスト4。 男子バスケットボール部: インターハイ県予選ベスト8。ウインターカップ県予選ベスト8。 吹奏楽部: マーチングバンド東海大会に出場。 化学部: 全国ユース環境活動発表大会関東地区大会優秀賞。 食品研究部: 雅心苑とのコラボ商品を開発中。 スキー: 全国高校総合体育大会・国民体育大会冬季大会出場。スラローム、ジャイアントスラロームの2種目。 フェンシング: 高校総合体育大会個人戦女子サーブル優勝。全国・東海総体出場。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校友会活動は自校への所属意識を高めるために意義ある活動となっている。「カトガクイズム」醸成として、生徒主体の活動を支援する学校体制を維持して行ってほしい。 校友会活動においては、多くの生徒が自分に合った部活動に入部し、活動に励んでいる。 素晴らしい結果を出している。地域でも話の中で学校名がよく出てくる。これからも頑張ってください。 新聞紙面等で活躍を見ることができて嬉しく思う。 熱心に活動している。顧問の先生の熱心な指導に頭が下がる。 これからも文武両道を目指してほしい。 思うように活動ができない中、どの部活もとても頑張っている。 学校名の入ったジャージを着ているので、登下校時など校外でのマナーもしっかり指導してほしい。
学校安全	安全管理の充実	防災訓練の実施と安全管理の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練の定期的実施。 安全管理マニュアルの確認と対応。 防災避難用設備の改善。 防災上の調査・点検・研究。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練・火災訓練を実施し、生徒の防災に対する意識向上に努めている。 安全管理マニュアルを確認し、緊急時の対応が迅速にできるようにしている。 学校アンケートの結果で、「自然災害や火災に対する教育・訓練が行われている」の評価が低いので、保護者へのアプローチも必要と考える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> より具体的な防災訓練にしていくための工夫や実践を積み重ね、ケースごとの緊急時対応を保護者も交えた中で研究していくと良い。 地域の防災訓練に積極的に出席していただけるよう、学校からの呼びかけをお願いしたい。

領域	ねらい	評価項目	達成目標	自己評価	成果及び改善点	外部評価	学校関係者からの意見
教科指導	基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実	授業改善の推進を図る	<ul style="list-style-type: none"> 各部・各コースの特性を活かし「生徒一人ひとりの能力を引き出す授業」を展開する。 教科研鑽に努める。 授業アンケートを活用し、生徒の要望に応える。1学期末と2学期末の2回実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策として休校期間があったが、ICT(iPad)を活用した授業や課題提出等を実施し、授業進度の確保に努めた。 休校期間にZOOM等を活用したホームルームを実施したり、動画授業を配信したりした為、教職員のICT活用能力は前年度よりも向上した。 本年度も授業進捗確保の為、授業アンケートの実施は中止した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善は教員だけではなく生徒の問題でもある。ICT活用を切り口として、生徒の主体性を引き出す工夫が必要である。 コロナ禍の授業改善を進めている。 ICT活用の授業改善に注力している。
		個に応じたきめ細かな指導を行う	<ul style="list-style-type: none"> 副教材を積極的に活用し、基礎学力を定着させる。 英検・漢検・情報処理検定等の資格取得にチャレンジする。 学習日誌を継続し、生徒個々との対話と情報収集を心掛ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 休校期間においては、Classiやスタディサプリ等のデジタルコンテンツの活用を積極的に実施し、学習時間の管理や模擬試験に向けた取り組みを実施した。 スカイプを利用しての個別英会話授業を実施した。生徒の反応は非常に良かった。(特進1年) 検定試験については、英検(全学年)や情報処理検定(2年)を全員受検とし、昨年度よりも多くの生徒が資格取得できた。また、漢字検定や数学検定・歴史検定・ニュース検定等の受検も呼び掛け、学年単位で受検するなど多くの資格を取得できるようにしている。英検指導は、英語科を中心として取り組んでいる。 Classiを活用して生徒とのコミュニケーションを行っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ウィズコロナ時代のきめ細かな指導にはICT活用は重要だが、その働きかけと反応を分析することで、対面授業の充実に繋げたい。 学習時間の変化も多い中、教科指導も大変な年であった。 英検等の指導が行き届いている結果である。 休校期間中の対応が保護者には分かりづらい面があった。
教資職員向上	教職員の資質・能力の向上	校内研修の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業を年間2回土曜日に実施し、保護者の参加を促す。 教科担当者は定められた期間内に研究授業を実施する。 模擬授業(カンファレンス)の実施。 学内の職員研修実施。 私学人として誇りを持ち、生徒の見本となる節度ある言動・服装を常に意識する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策の為、本年度の公開授業は申し込み制として1学期は在校生の保護者対象、2学期は中学生とその保護者対象として実施した。また、新コースに向けた授業も公開し、非常に好評であった。 本年度のカンファレンスも中止とした。 校内職員研修は、4月と8月の年2回、新任研修は4月と8月の年2回実施している。新任教員が毎年多数いる為、研修以外にも日々の業務の中で、私学人としての在り方を伝えていく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新コースに向けた授業公開などのコロナ禍での実践を評価したい。このような機会を教職員研修の切り口として活かしていけたら。 一生懸命努力しているが、これで良いということはない。
進路指導	進学・就職へ向けての指導体制の確立	生徒の進学・就職希望の実現を図る	<ul style="list-style-type: none"> 始業前・放課後の補習と個別指導の実施。 長期休暇中の補習の実施。 各種検定・資格取得に積極的に取り組む。 特進部と進学部の一部は、一般受験に挑戦し、県内の4大学を含む国公立大学30名以上、早慶上理、GMARCIH、関関同立に40名以上の合格を目指す。 校内進学相談会を効果的に運用する。 長期休暇中の教員の外部講習への参加。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍2年目に入り、生徒たちはオープンキャンパスの開催が制限されるなか、オンライン等を利用して情報を入手できた。校内進学相談会はオンラインと対面のハイブリット型の新たな試みではあったが、全教員の協力を得ながら開催できて良かった。 共通テスト2年目で問題が難化し、全国平均が下がったものの、上位層の生徒は比較的点数を維持した為、上位国公立や共通テスト利用の私大合格に繋がった。1月以降コロナ感染状況が拡大した為、私大・国公立個別対策については対面指導を減らしiPadを利用しての指導を行った。 国公立大学の合格(現役) <ul style="list-style-type: none"> 名古屋・横浜国立・千葉・静岡(2)・群馬・東京都立・横浜市立・静岡県立(4)・静岡文化芸術(2)など合計24名。 難関私立大学の合格(現役) <ul style="list-style-type: none"> 上智(2)・東京理科(2)・明治(2)・青山学院(4)・立教(6)・法政(8)・学習院(4)・津田塾・聖心女子・日本女子(6)など79名。 看護ガイダンスは8回実施し、医療人としての心構えや面接練習の講義を受け、実際の入試に非常に役立った。 特進部の教員を中心に予備校が開催する教員向け講習にオンラインにて参加し、生徒の個別指導に活かした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンスとカウンセリングが進路指導でも重要。新たな試みを実践したことが次のフェーズの対応策につながる。今後に期待します。 本校を目指して入学してきた生徒が、安心して希望をもって進学・就職できるように指導を継続してほしい。 きめ細かな進路指導の結果が表れている。就職者への指導体制も確立している。

領域	ねらい	評価項目	達成目標	自己評価	成果及び改善点	外部評価	学校関係者からの意見
生徒指導	生徒の人間力と加藤学園プライドの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の育成 ・礼儀・マナー・モラルの育成 ・基本的生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の校則やその他本校独自の規則やルールを生徒一人ひとりに理解させ、遵守できる能力を身につける。 ・挨拶や言葉遣い、社会生活の中の公のマナーやモラルなど「人間力育成」を目指し指導する。 ・コロナ禍で生活のリズムを崩したり、登校する意欲が低下している生徒への早期対応に力を入れる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は昨年度に比べ問題行動が増加した。要因としては同一生徒による再犯が8名おり、指導が難しくなっている。また問題行動となるSNSへの自分達での軽率な投稿とその情報を見た本校生徒からのメール通報が少なくなかった。不適切な内容の投稿は本校やプライド高く頑張っている生徒には大変不名誉なことだということをネット講座や学年集会を中心に伝えたい。そこには個人の自尊感情の向上も関連しているので、目標を持たせることも大切である。 ・教職員に挨拶指導を呼びかけ、まず先生方から生徒への挨拶や、HRや授業の際の挨拶の繰り返し指導もお願いしてきた。コロナ禍でマスク着用を義務づける中、挨拶を絶やしてはいけなさと強化してきた。 ・体調不良がコロナやワクチンの影響かどうか明確とは言えないが、欠席はかなりあった。家庭の判断に任せてあるが、本校としてマスク着用、換気など毎日感染予防対策には力を注いできた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの功罪をテーマとした意見交換等を通じ、問題回避、マナー向上やモラル意識醸成の契機としたい。生徒指導の基本はガイダンスとカウンセリング。自分と向き合う場面を大切にした取り組みが登校意欲の低下等を防止する手立てとなる。 ・本校は、規則やルール、校訓「至誠」の中で人間力を養っている。再犯の起こらない指導を。 ・学校としての努力が素晴らしい。継続的に指導されるよう期待しています。 ・加藤学園創設以来、生徒の規範意識の育成に注力している。入学生にも十分浸透しているところとることができる。 ・自転車マナーが徹底できていない。
	保護者や地域住民から信頼される安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止教育 ・防犯教育 ・情報リテラシー教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策委員会(毎月)での情報交換と全教職員の共通理解により、いじめや嫌がらせの未然防止と早期発見・早期対応に努める。 ・貴重品や自転車の盗難が発生しない環境づくりと自己防衛の意識の育成。 ・コロナ禍ではあるがリモート講座も含め現代の情報社会の中で問題となる個人情報の投稿内容や被害・トラブルなど様々な関連事項を実例をあげて伝えたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策委員会を通じて大きな人間関係の生徒間トラブルから不登校になるケースは無かった。一方、家庭内の問題から欠席が増加する傾向は数件あった。細かい生徒観察など担任・学年からの情報提供が見られ、早期発見に役立った。しかしながら常に危機感をもち、いじめ・嫌がらせのない学校づくりに努めていきたい。 ・金銭盗難4件、自転車盗難0件であった。金銭盗難は全てHR内であり、わずかな時間帯に発生している。大金所持以外は生徒が教員に預けないことから、個人の危機意識の向上・常に携帯するようにするなどの自己防衛が必要である。個人ロッカー(鍵あり)を設置しても鍵の紛失や未施錠など状況は変わらない。HRの鍵係の施錠の徹底も未然防止や盗難が万一発生した際の調査の特定条件にも大切なことだけに継続し呼び掛けていきたい。 ・個人のツイッターでは個人名や学校が特定される個人情報もまだ投稿されている。不適切な内容でなくても投稿者がなりすましやストーカー被害にあうことも含め伝えなければならない。情報リテラシー教育講座や消費者教育はリモートを含め実施できたが、一部の生徒は個人の承認欲求が先行して本校にとって不名誉な内容を一部の限られた生徒に投稿し、結果その生徒の中から学校にメール通告があるという状況であった。生徒の心の教育は様々な角度から続けていく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等を含め情報リテラシーが課題。今後も生徒自身が問題解決の主体となる仕組みについて研究実践を積み重ねていって欲しい。 ・地域の皆様のご意見を聞き、改善すべきことは早く改善し、さらに安全・安心な学校づくりを目指す。 ・生徒の深層心理まで知ることが困難な中、先生方の心身の健康を念じています。 ・問題はどこの学校でも起こるが、そこから波及して増えないようにする指導が肝心である。生徒や保護者・住民が納得するきめ細かな生徒指導ができています。 ・教員が一丸となって安全・安心な学校づくりをしている成果がでている。
国際理解教育	国際理解教育の充実	国際理解教育の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・海外への修学旅行を実施。 ・短期留学を充実させ一層の促進をはかる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度も新型コロナウイルス感染症対策の為、修学旅行や短期留学が中止となった。 ・3名の生徒(2年生)がカナダへの短期留学に出かけた(1月～3月)。 ・国際交流はオンラインでも可能であるため、英語の授業等を活用し、可能な範囲で実施した。オンラインの活用は新たな国際交流としての可能性を広げている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン活用を研究し、高校生世代の国際連携推進に繋げていけたらよい。 ・海外へ行くことができず、残念である。 ・コロナ禍の為、目標達成できなかったことが残念です。オンライン活動などの工夫が必要です。 ・英検取得など英語教育や国際理解にも力を注いでいる。 ・修学旅行を実施した高校もあり、残念であった。